

2023年6月19日 朝会 「水無月（みなづき）」

皆さん、おはようございます。元気なあいさつができていますね。

先週土曜日は、とても暑い中、お家の人と砧公園まで歩いてもらいました。万が一の大きな災害時の最終避難場所が砧公園なのです。しっかりと覚えていてくださいね。



先週は梅雨の言葉の由来や、健康な過ごし方などについて話しました。

今日は、6月の別の呼び方「水無月」について話してみようと思います。

日本では、現在の暦では「6月」と呼び、古い時代に使っていた暦、旧暦では、『水無月（みなづき）』と呼んでいました。今でも6月の別名として「水無月」と呼んでいるのを聞いている人もいます。

水無月は漢字で書くと「水の無い月」と書くのですが、けっしてこの時期に水が無いからついたわけではありません。

水無月の「無（な）」は、もともとは、（「の」にあたる連体助詞「な」で、）「水の月」という意味でした。6月は雨の多い時期ですから「水の月」と呼ばれたり、農家さんが田んぼに水を入れる時期でもあるので、水の月と呼んだりしたものが変化して「水無月」になったという説があるのです。旧暦の別の呼び方で「水張月（みずはりづき）」もあるため、田んぼに水を引く時期に由来すると考えてよさそうです。

このほかにも、6月の別の呼び名はたくさんあるのですが、二つ三つ紹介します。

「鳴雷月」（なるかみづき）は、雷の多い月でもあるため呼ばれました。

「風待月」（かぜまちづき）は、暑くなり、風が吹くのが待ち遠しい思いで呼んでいました。温暖化の進んだ現在よりも、昔の方が涼しかったといわれますが、やはり暑かったのです。わずかな風が待ち遠しかったのでしょう。

「蝉羽月」（せみのはづき）は、暑くなって蝉の羽のような薄い着物を着る季節なので、このように呼ばれました。正式の場所に出るときも薄い着物が許されたそうです。今のクールビズと同じですね。

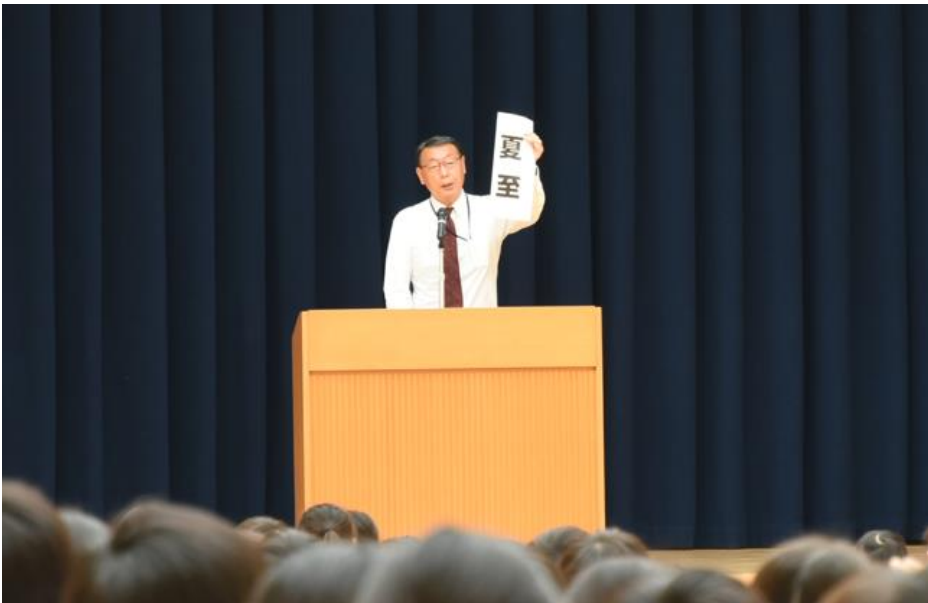
この他にもいくつかの呼び方がありますが、どれも季節感漂う美しい日本の言葉であると感じています。



それから、明後日 21 日は、「夏至」にあたります。旧暦の二十四節気の一つ、夏至です。1 年中で昼間が一番長い日です。東京での昼間の長さが一番短い 12 月の「冬至」に比べると、4 時間 50 分も長くなるのですね。

外にいて、まだまだ空が明るいなと思って、時計を見ると 7 時をまわっていたり、なんだか得をしたような気分になったりします。梅雨と共に、季節の移り変りを感じることができる貴重な経験になりますね。

明るい昼間の時間を有効に使って欲しいと思います。けれども明るいからといって、遅くまで出歩くのは気を付けましょう。何事もほどほどに。



話は変わりますが、このところバス車内での迷惑行為への苦情が学校に寄せられているとの注意を皆さんにしました。

この話を聞いて、皆さんはどう感じましたか。多くの人たちは、しっかり自覚を持ってマナーを守ってくれています。しかし、残念ながらマナーを守ることよりも、自分自身の勝手な気持ちを抑えられずに、周りの迷惑も考えず行動する人が居ることも事実です。とっても残念なことです。

「都市大っ子ベーシック」を皆さんは知っていますね。
本校の児童として、誰もが身に付けていなければならない行動の基本となる考え方をまとめたものです。

素直な心でいよう。・・・挨拶、返事、感謝のきもち

思いやりをもとう。・・・言葉づかい、公共マナー

ルールをまもろう。・・・時間、身だしなみ、整理整頓

これらを守っていくことが、都市大小の児童として求められるしっかりとした学校生活と外での模範行動に繋がっていくのです。

もうすぐ上級生には実力テストや判定テストが始まります。きちんとした生活習慣ができていないと落ち着いた学習はできません。また、来月に入ると、1年生から5年生は宿泊行事が行われます。様々な場所に皆さんは出かけていきます。ただの遊びではありません。目的を持って色々な経験を積んできてもらいます。

特に今は、「素直な心でいよう」を第一に心掛けてもらいたいと思います。

「都市大っ子ベーシック」が身につけていない人、自分勝手な人には、折角の楽しい行事も、ただ迷惑でつまらないものになってしまうでしょう。

参加する全員が、同じ目標に向かって努力することで、成功した時の達成感や満足感が生まれるのです。運動会の感動は、みんなで協力して、みんなでルールを守り頑張ったから心から喜ぶことができたのです。このことを忘れずに取り組んで欲しいと思っています。

都市大小のみんなが守る「都市大っ子ベーシック」で、バス車内での迷惑行為ゼロを目指すとともに、友達に対する思いやりを大切にして学校生活を送って欲しいと願っています。

最後に雨にまつわることわざを一つ。

「雨晴れて笠を忘れる」、人はその時に感じた教訓や感謝の気持ち忘れてしまうことをいいます。晴れても笠を忘れないように、注意されたことや、教わったことを直ぐに忘れないようにしてください。

けっして「雨降って笠を忘れる」にならないように。

終わります。